

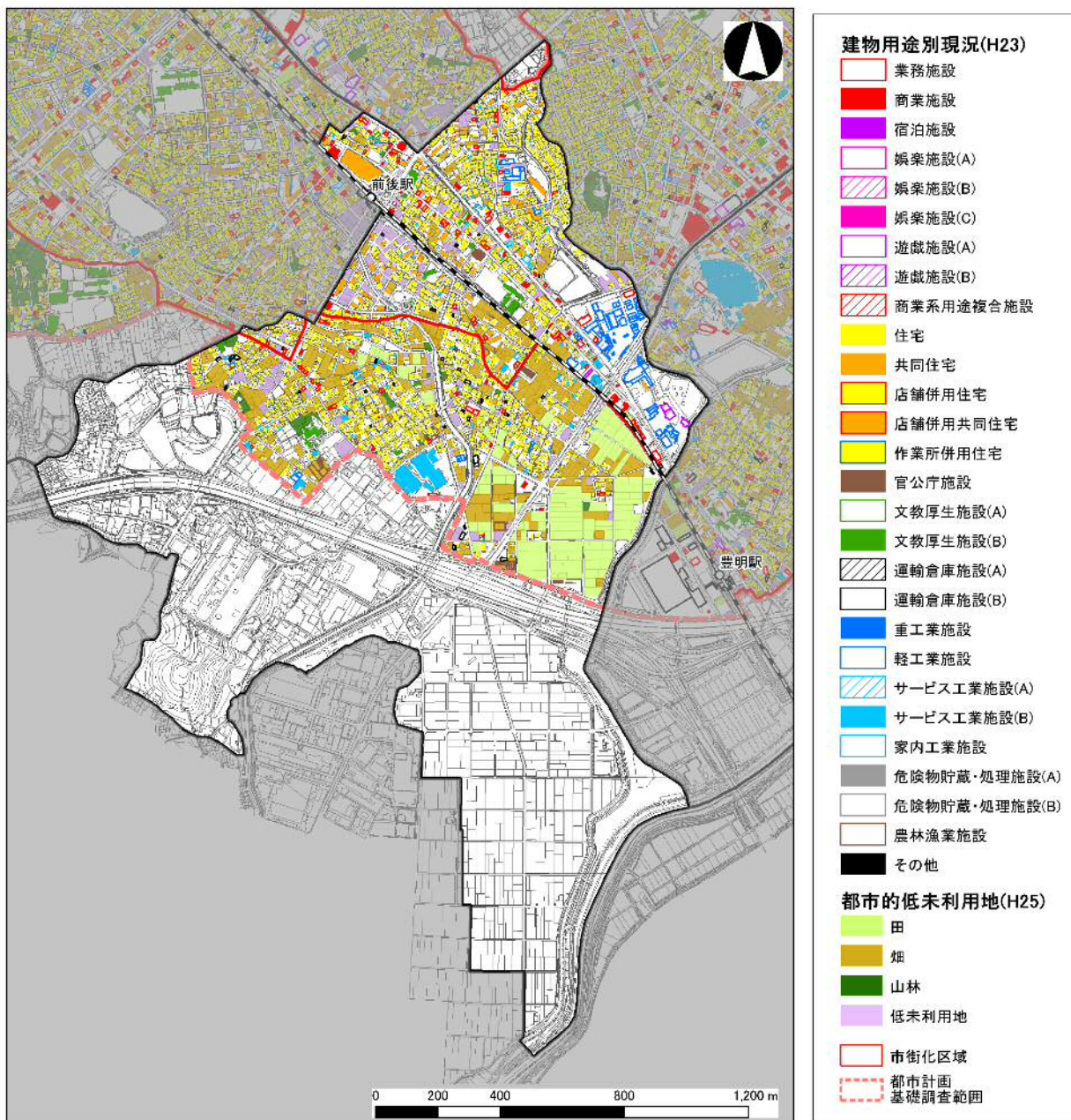
# 豊明小学校区

## 1 地域の概況

### (1) 土地利用

- 前後駅周辺では都市的低未利用地がまとってみられ、市街化区域内にも畑が分布しています。
- 本地域は、住宅地が主体の土地利用となっています。
- (都)国道1号東線の沿道や前後駅周辺などに商業施設の立地がみられます。

図 土地利用現況



資料：平成 23、25 年度都市計画基礎調査

(2) 都市基盤

- 宅地となっている地区はほぼバスの利用圏（半径 300m）に含まれています。
- 前後駅周辺では、土地区画整理事業が行われていますが、その他の地区では都市基盤が未整備の既成市街地が広がっています。
- 土地区画整理事業が行われた範囲では、都市公園が整備されており、身近な公園が十分整備されていますが、その他の地区では、公園が整備されていません。
- 本地域の都市計画道路は、(都)桜ヶ丘沓掛線の一部が未整備区間となっています。

図 都市基盤整備状況



資料：豊明市

(3)人口等

- 平成18年から平成28年にかけて、栄町、間米町では人口が減少しているものの、地域全体では人口増加となっています。
- 高齢者割合は栄町、間米町では市平均24.8%（平成28年住民基本台帳）を上回っているものの、地域全体では、市平均を下回っています。

表 地域の人口と高齢化の状況

町名	H28人口	H18人口	人口増減数	H28高齢者	高齢者割合
阿野町	2,257	2,215	42	529	23.4%
栄町	2,734	2,772	-38	758	27.7%
間米町	25	26	-1	7	28.0%
前後町	1,313	1,159	154	268	20.4%
合計	6,329	6,172	157	1,562	24.7%

※各町の人口等は本地域分を計上

資料：住民基本台帳

図 H18～H28 人口増減

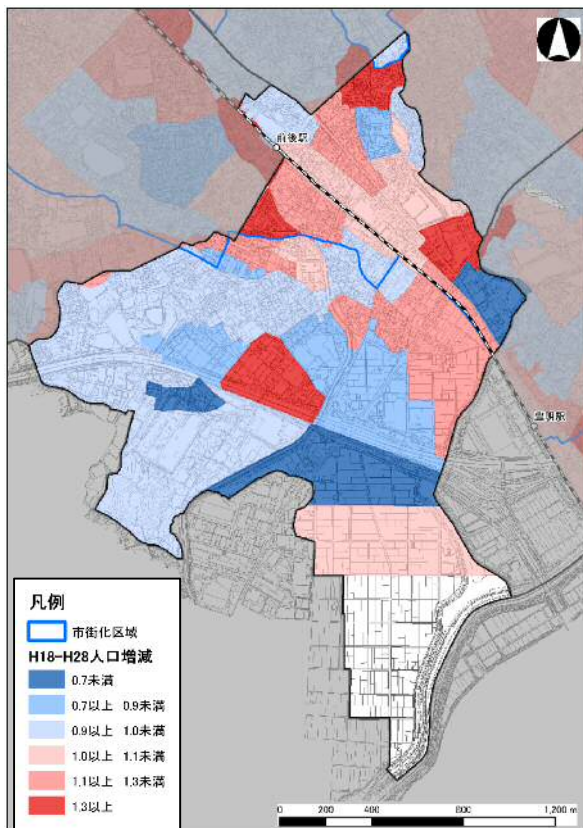
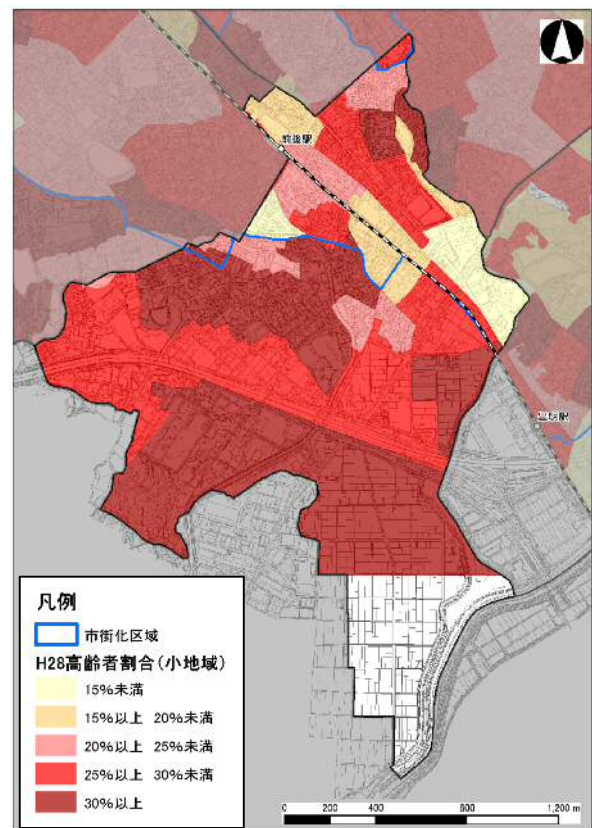


図 H28 高齢者割合



資料：住民基本台帳

## 2 地域の魅力と問題点

地域別ワークショップで出された意見をもとに、本地域におけるまちづくり上の魅力と問題点を整理します。

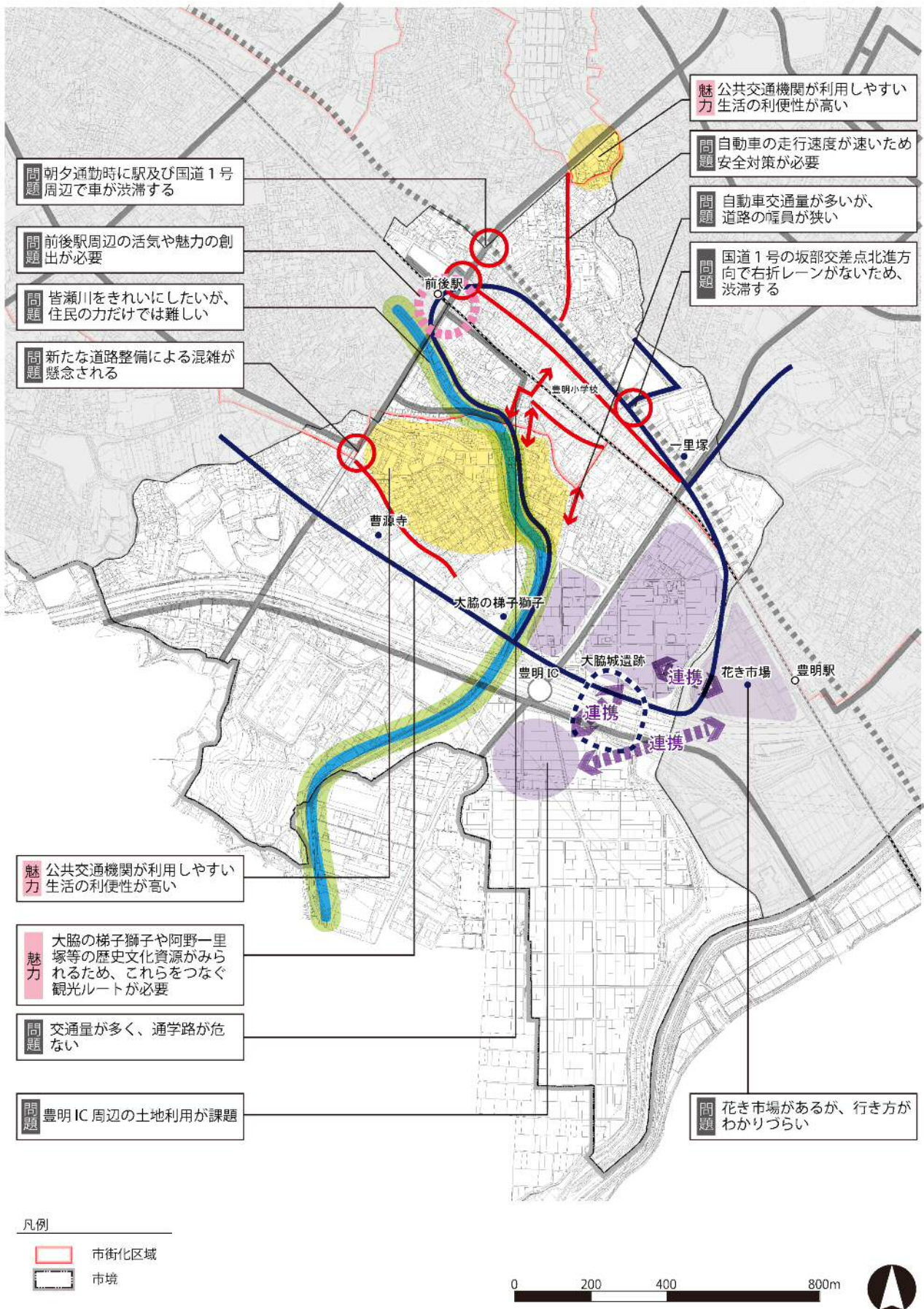
### (1)地域の魅力

- 都市拠点として位置づけた前後駅周辺は、交通結節点であることから、公共交通の利便性が高くなっているとともに、商業や医療などの都市機能が集積しており、生活利便性が高くなっています。
- 近年、前後駅南土地区画整理事業により前後駅南に人口が増加しています。
- 大脇の梯子獅子や阿野一里塚などの歴史文化資源がみられます。

### (2)地域の問題点

- 本地域は生活利便性の高い地域であるにも関わらず、栄町や間米町で人口減少がみられます。また、島川地区をはじめ、前後駅に近いものの、市街化調整区域となっているため、新たな住宅地としての整備が難しい地区がみられます。これらから、今後もまちの活力を維持するためには、暮らしやすい環境づくりを進め、新たな居住者を呼び込む必要があります。
- 豊明 IC 周辺において広域的な交通利便性に優れている利点が十分に活かされていないため、周辺の土地活用の検討が必要です。
- 主要幹線道路である(都)国道1号東線は現在片側1車線となっており、主要幹線道路としては車線数が不十分であるとともに、坂部交差点などでは交通渋滞が発生していることから、通行しやすい道路整備が必要です。
- (都)桜ヶ丘沓掛線の未整備区間が整備された場合、栄町姥子交差点周辺において渋滞が予想されることから、渋滞対策が必要です。
- 幹線道路などで渋滞が発生することにより、周辺の生活道路へ通過交通が多くなっていることから、特に通学路における歩行者の安全確保が必要です。
- 災害時における緊急車両の通行や住民の避難を容易にするなど防災機能の確保のため、狭あい道路の解消が必要です。
- 魅力ある生活環境の整備とともに、防災機能の確保のため、公園の整備が必要です。特に鎌ヶ須地区で公園が少ないため、整備が求められています。
- 本地域を流れる皆瀬川の維持活動を住民が中心となって進めています。川幅が広いところなどでは住民の力だけでは作業が難しく、地域住民と行政と協働による維持活動の推進が必要です。

図 主な地域の魅力や問題点



### 3 全体構想における位置づけ

#### (1) 将来都市構造

- 都市拠点に位置づけられている前後駅周辺があり、当該拠点では公共交通結節点としての機能強化を図るとともに、商業・業務等の都市機能の集積を促し、本市の玄関口にふさわしい活気と魅力ある拠点形成を図ります。
- 産業連携軸に位置づけられている(都)伊勢湾岸道路、(都)名四国道、(都)名豊線があり、円滑な人の移動や物流を確保し、産業活動を支える軸として機能の維持・強化を図ります。また、豊明 IC 周辺などで、物流や製造業等の土地利用を誘導し、広域的な交通利便性を活かした都市構造の形成を図ります。

図 本地域の将来都市構造図

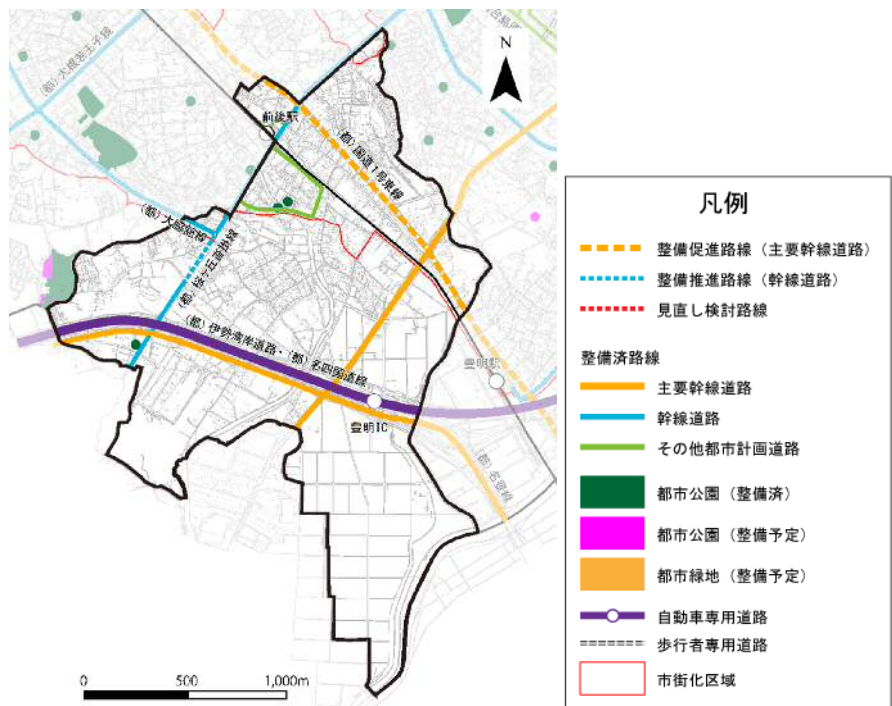


#### (2) 主な都市づくりの方針

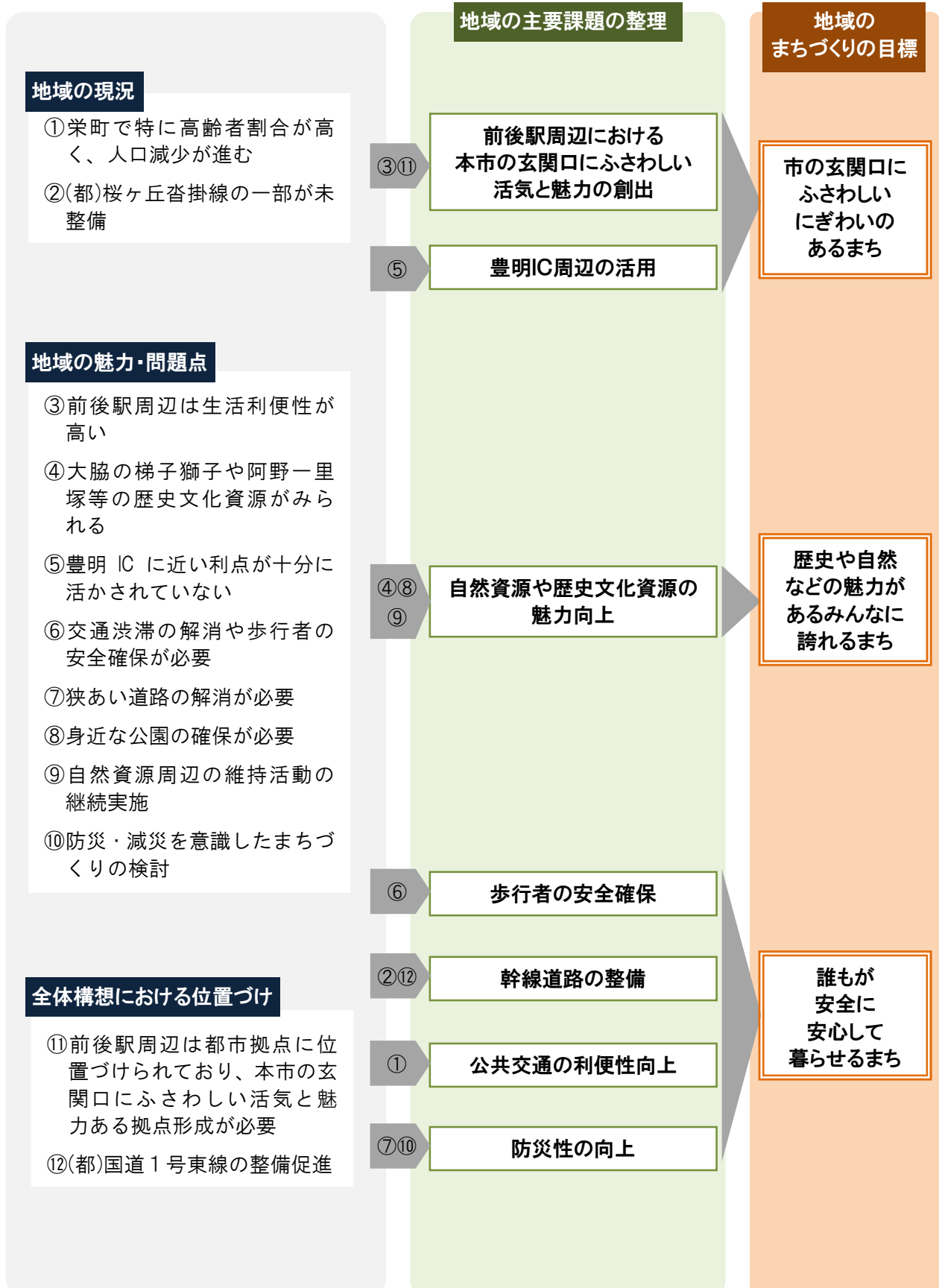
広域的な交通需要に対応する主要幹線道路として位置づける(都)国道1号東線については、未整備区間の整備と整備済み区間の計画的な維持管理を関係機関に働きかけます。

- 主要幹線道路を補完する幹線道路のうち、未整備区間を有する(都)桜ヶ丘沓掛線の整備を進めます。
- (都)桜ヶ丘沓掛線(内山地区)の整備にあわせ、関係する周辺道路の整備など、渋滞対策について検討します。
- 前後駅周辺における駐輪施設の充足状況を調査し、需要に応じて必要となる駐輪施設の設置を検討します。

図 本地域の幹線道路、公園・緑地の整備方針図



## 4 地域の主要課題の整理



## 5 地域のまちづくりの目標と方針

本地域の魅力と問題点を踏まえ、本地域がめざすまちづくりの目標を以下のように定めるとともに、その実現に向けたまちづくりの方針を示します。

### 地域のまちづくりの目標

#### 市の玄関口にふさわしいにぎわいのあるまち

本地域では、都市拠点となっている前後駅周辺や広域交通の利便性の高い地域である豊明 IC 周辺において、本市の玄関口として、利便性の高い市街地の形成を図るとともに、交流によるにぎわいのあるまちをめざします。

### 行政が主体的に取り組む地域のまちづくりの方針

- 初めての来訪者でもわかりやすいような、花き市場へのアクセスの検討を行います。

### 住民と行政との協働による地域のまちづくりの方針

- 前後駅に近く生活利便性の高い間米地区や大脇地区において、道路や公園などの整備により良好な市街地整備を進め、多様な居住ニーズに対応した住宅地の形成を図ります。
- 豊明 IC 周辺は、広域的な交通利便性に優れた地区であることから、地域住民や民間企業、行政が連携して、道の駅等の誘致や産業用地の形成などの検討を行います。
- 前後駅周辺においては、本市の玄関口にふさわしい活気とにぎわいある拠点の形成や公共交通の利用促進をめざし、地域住民や民間企業、行政が連携して、商業系用途地域に見合った都市機能の立地誘導や都市基盤施設整備を図ります。

### 地域のまちづくりの目標

#### 歴史や自然などの魅力があるみんなに誇れるまち

本地域では、身近に自然や歴史文化資源が感じられ、本市の魅力の PR や観光の拠点となるまちをめざします。

### 住民と行政との協働による地域のまちづくりの方針

- 皆瀬川周辺の清掃活動や緑化の活動を継続して実施します。
- 大脇の梯子獅子や阿野一里塚などの歴史文化資源をはじめとした地域の魅力を巡る観光ルートの設定とその周知を図るとともに、歴史的な趣が感じられる道標の設置などの整備を進めます。



## 地域のまちづくりの目標

### 誰もが安全に安心して暮らせるまち

本地域では、自動車交通を円滑に処理するとともに、誰もが安全に歩行でき、公共交通により移動できるまちをめざします。また、災害に対しても安全なまちをめざします。

#### 行政が主体的に取り組む地域のまちづくりの方針

- 通学路等では歩行者の安全で円滑な移動確保のための道路整備や自動車の走行速度の抑制などの交通安全対策を進めます。
- 地域内での自動車交通を円滑に処理するため、主要幹線道路である(都)国道1号東線の概成済み区間の整備を関係機関に働きかけるとともに、幹線道路である(都)桜ヶ丘沓掛線をはじめとした道路の整備を進めます。
- ひまわりバスについては、市民の利便性を向上させるようにルートやダイヤ等の見直しを行います。

#### 住民と行政との協働による地域のまちづくりの方針

- 地域のイベントと連携したバス利用の啓発活動など、公共交通の利用促進策を検討します。
- 災害に対する防災・減災を図るため、地域住民が主体となって、防災を意識したまちづくりの検討を行います。
- 幅員が4m未満の狭あい道路については、建物の機能更新にあわせて、道路幅員の確保を進めます。